

うぢやな。」

美女「さういたしますと山に入て木食するのも求道の正徑でないやうで御座いますが、やはり普通の生活をつゞけつゝ無理な長壽なぞも願はず縁に觸れて善事善行を積み行きさへすれば佛の境界にも達するといふやうなわけで御座いますか。」

老人「普通に善事善行を積むだけでは其れは有相の行といふもので尙ほ流轉輪回を免れず來世は人間界の上等のところ貴族富豪のやうなものゝ家に生れるか其れとも人間界より一段上の天界の生活に入るかで、やはり流轉は免かれぬやうぢやな。」

美女「それでは佛になればどんなところへ生れませう。」
老人「佛は十方に通貫して去處あることなしぢや。」
美女「なんだかたよりない話ではありませんか、それよりも私なんか矢ツ張り人間界や天界を流轉してゐる方が結構ですわ。」

老人「それはどうもあなたの勝手ぢやな、あはゝゝゝ。」

X X X X X X

神遊千里。而足不越于門庭。

目營四海。而身不移于咫尺。

楓化為老人。而猶為楓。

美女化為石。而猶為美女。

四月十六日着信、生れたばかりの嬰兒を再び失へる某夫人の間處に答ふ

にげもせず

來もせずそこに居りもせず

如露如小便應作如是觀

甕

おしつこをした度毎に泣く人が

子供うむとはおかしかりけり

昭和二年四月二十二日印刷
昭和二年五月九日發行
發行所 周防國宮市
編輯人 友清九吾
印刷人 廣島市猿樂町五十一
佐伯卓造
印刷所 廣島市猿樂町五十一
株式會社佐伯便利社
發行所 周防國宮市
天行居

終

